

ドロノキハムシ

ポプラやヤナギの葉を食べるイモムシ（幼虫）または甲虫（成虫）。幼虫は最大長約15mm。体は黄色で黒い斑紋がある。頭部は黒い。成虫は体長約10mm。背中は赤、頭の方が青黒い。下側や脚は青黒い。

森林や街路樹でまれに多発する。



1. 成虫，体長9mm。2001/8/1。美唄市，ヤナギの1種。

【学名】 *Chrysomela populi*

【分類】 コウチュウ目（Coleoptera），ハムシ科（Chrysomelidae）

【分布】 北海道，本州，四国，九州；旧北区。

【生態】

北海道では年2回発生するといわれている。成虫は土中で越冬。春に若葉を食べる。卵は約50個ずつ葉裏に並べて産み付けられる。幼虫は小さなときは集団で葉の表面を削り取るように食べ、食害された葉は網目状になって枯れる。成長した幼虫や成虫は葉の柔らかい部分を食べ、葉脈を残す。葉裏や小枝で蛹になる。7月に成虫になり、再び産卵、夏に幼虫が現れる。秋には成虫になって越冬に入る。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
成虫（越冬）	+++	++++++	+++
成虫（摂食）・卵			..○○	○○..	..○○	○○..	..○○	..	
幼虫（摂食・成長）			.. ■■■■	■■■■	..			
蛹				..◇	◇..	..◇	◇..		

【被害と防除】

ときどき多発するが、たいてい1年で被害は終わる。防除は普通必要とされない。

【文献】

1956. 中根猛彦監修. 原色日本昆虫図鑑甲虫編, 増補改訂版: 1-274, pls 1-68. 保育社, 大阪. (分類, 形態, 生態)
1963. 中根猛彦ほか. 原色日本昆虫大図鑑II (甲虫篇): 1-18, 1-443, pls 1-192. 北隆館, 東京. (分類, 形態, 生態)
1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).
1994. 木元新作, 滝沢春雄. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 539p. 東海大学出版会, 東京. (分類, 形態, 生態)
1994. 奥田素男. ドロノキハムシ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集. 森林昆虫, 総論・各論: 361-362. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ドロノキハムシ hamusi/doronoki/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/18-12/13.

seichu1.JPG

「写真1」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001.